

## 子ども読書会議（高校生の部）

- 日時 平成16年8月9日 13:30～15:30
- 場所 あいれふ9階（婦人会館） 大研修室
- 参加者 (敬称略)
 

|                    |    |        |       |
|--------------------|----|--------|-------|
| 博多工業高校             | 3年 | 林 将也,  | 佐伯 美幸 |
| 福翔高校               | 1年 | 八尾 太,  | 西田 早希 |
| 福岡女子高校             | 2年 | 桑原 恵里, | 松本理恵子 |
| 福岡西陵高校             | 2年 | 大櫛 仁志, | 岩田恵里香 |
| 子ども読書活動推進計画策定委員会委員 |    |        | 6人    |

### ● テーマ1 私の（ぼくの）読書活動と読書の楽しみ方

- ・興味を持った本を本屋で買ったり、図書館に行って借りたりして読む。
- ・時間をかけて描写を想像しながら、じっくり読む。
- ・本を手にとってどういう本かなとパラパラッと見て想像してから、いいなと思ったら借りたり、買ったりして読む。その本を他の人に貸すのも楽しみ。
- ・本屋で見たり、最初に書いてあるあらすじを読んだりして、おもしろそうだった本を買う。その後同じ本を読んだ人たちと意見交換をして、自分の本に対する見方だけではなく、違う角度からもみるようにしている。
- ・本屋で選ぶ場合はほとんど立ち読みですませ、図書室の場合は話題の本から読むことが多い。買った本を部室に置いてみんなが読めるようにして、読んだ人との話で盛り上がったりすることもある。
- ・図書館で好きな本を少し読んでみて、おもしろそうだったら借りて、友だちと意見を出し合ったりする。
- ・友達からお薦めの本を聞いたりして、読んだ後に友達と意見や感想を交換する。
- ・表紙など見た目を読む本を決めたり、話題の本を読んだりする。若い人の書いた本を読むこともある。
- ・家に置いてある本など身近にある本を毎日少しずつ時間をかけて、習慣づけて読むようにしている。もし、その本があまりおもしろくなくても、何回も読んで、その本のおもしろい部分を探そうとする。

### ● テーマ2 こんな図書館・学校図書館がほしい

- ・冷暖房を目当てに来る人もいるが、少しは本を読むことになるので、それでもいいのではないかと思う。図書館は静かというイメージがあるが、小さくてもいいから、皆で雑誌などを読みながらワイワイできるコーナーがあるとよい。
- ・貸し出し冊数のランキングや人気のある本の内容などを掲示したらよい。
- ・本が置いてある場所がきちんとわかるものがほしい。
- ・座り心地のいいソファがほしい。
- ・学校図書館に冷暖房を入れたり、生徒たちの読みたい本などのアンケートをとったりして、もっと利用してもらえるようにしたらよい。

- ・学校図書館にも公共の図書館にあるような、本の検索システムがあればよい。
- ・学校図書館に先輩方が図書館祭で作った絵などを飾ったら明るくなるのではないかな。

### ●テーマ3 読書の楽しみをみんなに広めるためには

- ・「図書館だより」を2か月に1回のペースで作っていて、新刊の紹介や人気のある本などを紹介したりして、みんなが読書に親しみを持ってもらえるようにしている。
- ・学級文庫を使って、みんなに本を紹介したらいい。
- ・テレビでも紹介のあった人気のある本を置くと、それから本を好きになった人もいるし、読みやすい文庫本サイズの本なども読んでくれるようになったので、みんなが親しみやすい本を図書館に入れたらいい。
- ・学級文庫みたいに自分たちで本を持ってきて置いておけば、興味がある人が読むし、自分が読んでおもしろかった本を持ってくる人もいるだろうから、いいのではないかな。
- ・図書館で、よさそうな本を置いておける場所があったら、読む人が増えるのではないかな。
- ・図書館の入り口近くに「新刊紹介コーナー」を設けたらよい。
- ・10分間の朝読書が始まってから本を借りる人が増えたので、朝読書は大切だ。
- ・1人でも多くの人に来てもらえるように、博多工業では毎年図書館祭をしている。今年のテーマはオリンピックで、テーマに沿った調べ物をしたり、オブジェをつくったりしている。
- ・福翔高校では文化祭のときに図書委員で「小さな本屋さん」という休憩所を作る。本を自由に読んだり、勝手に持って行っていいというもの。
- ・新刊案内のプリントを配布、宣伝するようになってから、図書館を利用する人も増えたのでもっと活発にすればよい。
- ・博多工業の朝読書における利点は、ホームルームから1時間目の間の時間が騒がしくなくなったことで、悪い点は始めた当初に比べて読む人が少なくなって、雑談している人もいること。

### ●その他

#### 1 読んだ本についてみんなで語り合うことについて

- ・比較的本を読むことの多い人たちの中では、楽しみ方のひとつといえる。
- ・読書の楽しみ方のひとつだと思う。
- ・自分が読んでいる本に興味を示してくれることはあるが、深く話し合うまでにはなっていない。
- ・周りの友達に本を読む人がいないので、そういう楽しみ方はない。

#### 2 高校生は本当に活字離れしているかについて

- ・見る限りでは活字離れとまではいっていないが、全然本を読まない人は活字離れていると思う。

- ・学校では読むが、家では時間がないので読まないという人もいる。
- ・雑誌やマンガなら読むという人もいるので、活字離れにはなっていない。
- ・資料として読書をする人もいるので、活字離れにはなっていない。
- ・雑誌を読む人などを含めると活字離れはしていない。

### 3 図書だよりについて

- ・博多工業は基本的には図書委員のなかに図書だよりの班があって、その班で作っているが、今回は先生にも協力してもらった。1学期に1回発行している。
- ・福翔高校は頻繁に発行している。1回に3～4枚、新刊図書の紹介、ストーリーやおもしろい所等も載せている。司書の先生と中心となる図書委員が作る。
- ・西陵高校は司書の先生が出す「図書館だより」と図書委員が作る「図書館だより（生徒版）」があり、「図書館だより」は毎月1回、生徒版は不定期に作る。本の紹介文のアンケートを採ったりする。

### 4 部室に置いている本について

- ・マンガ研究部に「GOTH-リストカット事件」などを置いている。

### 5 朝の読書の時間について

- ・10分間だがその影響でよく本を読むようになった。
- ・マンガや雑誌以外なら図書館で借りてもよいし、家から持ってきてよい。
- ・友達の読んでいる本の題名がおもしろそうだなと思って、内容を聞くと読みたくなって友達同士で貸しあいをする友達間の交流がある。

### 6 学級文庫について

- ・小・中学生の頃は担任の先生が持ってきて、あらすじを紹介したり読んだりしてくれた。教室の後ろに置いてあった。
- ・高校には学級文庫がないがあった方がよい。

### 7 新刊の選び方について

- ・生徒の希望を取り入れる。
- ・現在図書室にある本の中から人気があるもの・続編や次の巻を取り入れたりする。

